高等部 研究授業

令和6年12月6日(金) 富士特別支援学校富士東分校 大澤和俊先生をお迎えして御指導いただきました。

<研修テーマ> 生徒がやりがいを感じる授業づくり

~自ら考え動くためのフィードバックの工夫~

<研究授業> 作業学習(陶芸班)

単元名「作って納得 使って納得 誰もが喜ぶ製品を作ろう」

「スローガンで一致団結!」

朝礼では、3年生リーダーの呼びかけに全 員が声を合わせて「納得!」コール。続く拍 手で自分と仲間を鼓舞。チームが同じ目的に 向かって進む雰囲気作りを生徒自身が行いま す。(バザー当日撮影)



3 り しらはぎ 瑠璃と白萩の 織部と白萩の 釉薬と粘土の色が グラデーション 混ざってできた、 グラデーション 縁の茶色がおしゃ をお楽しみくだ をお楽しみくだ 1! さい。 さい。 夜の海のよう 重ねて掛けた アンケートで な瑠璃の色を 釉薬の模様が 1番人気の お楽しみくださ はっきりと出 釉薬の組み ています。 合わせです。 釉薬の色が重 なり、山のよう

「ここが製品の推しポイント!」

出来上がった製品を一つ一つ手に取り、 『推しポイント』を作成しました。

磨きの工程で特に気合を入れた底の手触りや、載せる献立案、アンケート結果を踏まえた釉薬の掛け合わせ etc・・・。

センスが光るコメントは、手塩にかけた 製品への愛着と「伝えたい」気持ちに溢れ 教師にとっては、生徒の可能性について、 『新たな発見』につながりました。

岩附敦史先生には、前回御指導いただいた効果的なフィードバックについて考えながら行った実践を見ていただきました。生徒が「納得感」を得るために、一つ一つの製品に向き合い、良さを「推しポイント」として見つけ PR していく活動そのものが、主体的で効果的なフィードバックになっていると嬉しい言葉をいただきました。今後の実践に引き継いで行きたいと思います。

